



# 徳川美術館 名品コレクション展示室

令和4年 9月21日(水)~12月15日(木)

展示期間 A:9/21(水)~10/16(日) B:10/18(火)~11/15(火) C:11/16(水)~12/15(木)

## 【第2展示室】

凡例:◎は重要文化財、○は重要美術品を示します。

## 大名の数寄 - 茶の湯 -

桃山時代に武将の間でも流行した「侘び茶の湯」は、江戸時代には「御数寄屋」の接待として、公式行事の一部に組み入れられた。こうして固定された茶の湯は、「侘び茶の湯」の持っていた美や新たな価値観をうち立てて行く自由な創造の精神を失って武家故実となり、格式行事と化した。大名は邸に茶室を設け、将軍の「御成」をはじめ、晴の行事に備えた。茶の湯道具もまた格式道具となった。桃山時代に武将や上層町衆や数寄者が持っていた道具の大半は、江戸時代には将軍や大名の秘蔵品となり、「名物」の道具は、時に一国一城にもあたるとされ、その所持、非所持が家の格を表すとまで評された。

No.	名称	作者・所用者・所蔵者・寄贈者など	時代	世紀	期間
<b>猿面茶室</b>					
<b>猿面茶室</b>					
1	◎ 古林清茂墨蹟「与月林道皎偈」	徳川家康・徳川義直(尾張家初代)所用	元	泰定4年<1327>	A
2	雨中漁舟図	一休宗純筆・同賛	室町	15	B
3	和歌懐紙「関路雪」	後水尾天皇筆	江戸	17	C
4	青磁中蕪形花生		南宋-元	13-14	
5	竹茶杓 歌銘 面影	小堀遠州作 高松家寄贈	江戸	17	AB
6	茶杓 歌銘 むら雀	船越永景作	江戸	17	C
7	瀬戸米市手茶入		室町-桃山	15-16	A
8	古瀬戸肩衝茶入 銘 閑鷗		室町	15-16	BC
9	井戸茶碗 銘 東大寺	松尾宗二(楽只斎・松尾流初代)所持 岡谷家寄贈	朝鮮王朝	16	
10	北室菊桐文釜		江戸	17	
11	伊賀瓢形水指	岡谷家寄贈	桃山	16-17	
12	唐物文茄茶入 銘 玉すだれ		南宋-元	13-14	
13	黒樂耳付茶入	道入作	江戸	17	
14	○ 猿丸集切 かけといふ	伝藤原行成筆 岡谷家寄贈	平安	11	A
15	◎ 源宗于像(佐竹本三十六歌仙絵)	詞 伝後京極良経筆 絵 伝藤原信実筆 個人蔵	鎌倉	13	A
16	六条切 八代和歌抄	伝光厳天皇筆	鎌倉	14	B
17	◎ 寒山拾得図	天遊松谿筆	室町	15	B
18	○ 香紙切 麗花集	伝藤原佐理筆 岡谷家寄贈	平安	11	C
19	時代不同歌合絵 伊勢・清輔	伝冷泉為之筆	室町	15	C
20	古銅扁壺形花生		明	16-17	
21	青磁浮牡丹花生		南宋-元	13-14	
22	染付獅子麒麟文象耳水指		明	16	
23	古薩摩茶壺 銘 初時雨		桃山	17	
24	鉄絵雲鶴兔文水指		明	15	
25	黄天目		南宋-元	13-14	
26	○ 紅安南草花文茶碗		ベトナム	16	

### 【第2展示室の見どころ - 猿面茶室 -】

第2展示室では名古屋城二之丸御殿にあった「猿面茶室」を復元している。待庵・如庵と並んで茶室として最も古く注目すべき遺構で、国宝にも指定されていたが、昭和20年(1945)、戦災焼失した。もとは清須城内に営まれていたが、慶長15年(1610)、名古屋城内に移築され、上使の接待場にあてられていたと伝える。明治に至って城内の建築物が払い下げられ、のちに末森入舟山(現・千種区見附町)に移築したが、明治13年(1880)、名古屋博物館(後の愛知県商品陳列館)にこれを寄付、さらに昭和8年(1933)、鶴舞公園内に移設された。

